

発行：地域力推進六郷地区委員会
 編集：「六郷わがまち」編集委員会
 事務局：大田区六郷特別出張所
 〒144-0055 大田区仲六郷2-42-2
 電話 03(3732)4885
 FAX 03(3735)6249

六郷わがまち

検索

六郷わがまち

(20周年記念として平野順治氏による創刊時の題字を復活)

六郷特別出張所管内	
人口	男 33,429人
	女 31,692人
	計 65,121人
世帯数	31,949世帯
平成24年10月1日現在	

「六郷わがまち」創刊二十周年記念号

「六郷わがまち」は、六郷の歴史や文化を伝え、地域活動などを広く知らせるため平成四年十一月一日に第一号が発行され、今号で節目の二十年を迎えました。

創刊二十周年に寄せて

大田区長 松原忠義氏

地域情報紙「六郷わがまち」の創刊二十周年を心よりお祝い申し上げます。



平成四年の発行以来「六郷わがまち」は六郷地区の発展とともに今日を迎えました。

その歩みは、情報提供にとどまらず、読者への問題提起や行政に対する政策提言など、様々な課題に真正面から向き合ってきた歴史でもあります。

初代編集委員長の故平野順治さんは、地域の歴史家として有名な方で、大田区史執筆者の一人としてお力をいただきました。そして、平野さんの思いを歴代の編集委員長・委員の皆様が紡ぎ、素晴らしい足跡を残されてきたことに敬意を表します。私が区長に就任して六年目になりますが、六郷

のまちは常に姿を変え続けています。十月二十一日には京急線も高架となり、このほど六郷図書館周辺の再整備にも着手しました。また、平成二十六年の春には、国道沿いに区の新庁舎（六郷特別出張所他）がオープンします。活力あるまちの実現には、様々な主体が力を合わせて大きな輪をつくっていくことが大切です。中でも特に重要な輪なのは地域の絆であり、私は住民目線の地域情報紙に大いに期待を寄せております。これからも「六郷わがまち」を鋭に、地域の皆様と手を取りあい、さらに住みやすいまちづくりを進めていきますので、どうぞ力をお貸しください。末筆に、六郷地区のますますのご繁栄と、皆様 が健やかにお過ごしになられることを祈念申し上げます。私からの祝辞とさせていただきます。

新旧編集委員長対談

六郷地区自治会連合会長 中島寿美氏
六郷わがまち編集委員長 亀石由之氏

「六郷わがまち」は、これまで十五町会・自治会から選出された数多くの委員が発行に関わってきました。私たち現編集委員は、歴史あるこの情報紙を、如何にして今後に継承し、更に高めていくか、原点に戻ってこれを見つめるため、対談を企画いたしました。

亀石 「六郷わがまち」も二十周年になりますが、現在どんな思いをお持ちですか？



中島 二十周年おめでとうございます。平成四年創刊時から携った者として感慨無量です。初代平野順治編集委員長は、大田区郷

土歴史研究者として活躍し、地域情報紙に残した実績は、大田区十八出張所管内でも群を抜くものでした。平成四年から十七年迄、十二年余の氏の指導力は私共委員として学ぶことが多く毎日が勉強そのものでした。

先ず情報紙の題字で随分議論して、「六郷わがまち」とし、次に書体を紙面のどの位置に、どの大きさで収めるかなど、タイトル一つ決めるにも時間をかけ、実に肌理の細かい配慮をし、新聞の内容も充実していました。妥協を許さぬ氏の情熱とその姿勢に今更ながら敬服しています。

当時はワープロがようやく使われだした頃で、始がが手書きの時代。役割分担や事前調査・取材・資料収集・生原稿、期日までに提出、全員で添削。現在と同じでしょうが、内容はなかなか濃厚でした。

亀石 地域情報紙に打ち込む気概と編集の原点を見た思いを強くしますが、創刊当時の「六郷わがまち」発行の目的は何でしたか？

中島 当時は、単会町会の新聞だけで、私たちは六郷全体の情報紙を待ち望んでおりました。単会の新聞とは異なる、六郷全体の情報を地域住民に知ってもらうことが目的でした。

亀石 印象に残る記事には、何がありますか？

中島 私の在籍中は、前述したように足で稼いで原稿を書くことが多く、六郷地区の公園を調査した時は一週間、時間差で公園に詰め子供の利用時間、遊ぶ内容、利用人数、遊具の中で一番人気は何か等々、統計をとりました。

また、「町の匠」と題し各々の地域の中で特殊な技術を持つ人の取材のため、私は仲六郷にお住まいの仏師のお宅を訪ねました。仏像が何体も部屋中に並べられ、原料の木材が散乱。三日間程通って作業の状況を見学し、小さなノミで精魂込めて仏像を彫る姿に圧倒され、質問を躊躇ったことが思い出されます。



亀石 それでは最後の質問ですが、現在の情報紙に求めるものや私たち編集委員に対する助言などありましたら、お聞かせください。

中島 そうですね。年月の経過と共に情報紙のメンバーも変わり、その内容も変化して来ましたが、時代と共に考え方が変わるのとは当然と考えますが、中身の薄い、心のない、どこからかの資料を写しただけの情報紙は芳しくありません。

私はこの編集委員の仕事に長年携り、素晴らしい経験をしたことを幸せに思っています。また、長く続けたことで六郷地区を知ることができ、その歴史も延々と語り継がねばと思っています。編集委員の

トピックス



六郷特別出張所で
絶賛発売中 1部200円

①「大田区ふるさと発見ブック」の販売
大田区自治会連合会が地域の魅力をたっぷり紹介した『大田区ふるさと発見ブック』（全七十六頁）が発行されました。



「改訂版 六郷今昔小誌」

詳しくは六郷特別出張所までお問い合わせください。

②「改訂版 六郷今昔小誌」の頒布
この度、六郷地区の貴重な歴史と文化を保存するための基金が設立されました。現在、基金への協力をいただいた方に六郷今昔小誌を差し上げています。

③第一回 六郷大運動会
六郷地区で初の大規模スポーツイベント「六郷大運動会」が左記の要領で開催されます。どうぞご来場ください。

- ・日時 十一月十七日(土) 十一時～
- ・会場 大田区総合体育館(梅屋敷)
- ・対象 六郷地区に在住の方

参加費無料。ご来場の方には、豪華景品が当たる抽選券を差し上げます。

「皆様には、情報紙発行の意味を理解し、尽力されますようお願いいたします。」
亀石 お話を伺って、心のこもった取材の大切さを再認識しました。

記事で振り返る二十年のあゆみ

※六郷図書館や六郷特別出張所で、バックナンバーをご覧いただけます。

私は、今年度から編集委員を二グループに編成し、皆で責任を持って編集に当たる体制を整えました。まだ試行錯誤の時期で、検討課題がいくつか残っています。

ですが、これからも読者本位の情報紙発行に尽力してまいります。
中島会長、本日はありがとうございました。

私たちの情報紙は、初代編集委員長 平野順治氏(創刊号〜三十五号)の十三年に及ぶ多大なご尽力によってその基盤が整備され、以降中島寿美氏(第三十六号〜)、石渡祥之氏(第三十九号〜)、志村龍男氏(第五十一号〜)、亀石由之氏(第

五十四号〜現在)と歴代の編集委員長の下、活動は連続と続いております。
創刊の経緯は対談でも触れています。が、第二号から第七号にかけて「目で見るいまむかし」と題し、明治から昭和の初期にかけて現在と過去を対比した写真が掲載され、時代の流れを感じます。また、第十四号から三十四号にかけては、「六郷の草たち」と題し、足掛け十二年にわたって、ついつい見落としがちなる草花をイラスト入りで紹介しています。
戦後の復興期、自家に風呂がなく銭湯に通った頃を思い出

させてくれるのが、第十号の「銭湯」です。
東京都入浴料金変遷表が載っており、昭和二十二年一月十六日施行では、大人壹円、中人六十銭、洗髪壹円とあり、翌二十三年三月五日施行では、大人六円、中人四円、小人貳円、洗髪六円とあります。皆さんご記憶ですか？
平成八年、当時七十から八十歳代の九名の協力により、明治から昭和の戦後頃までの口述をまとめ、貴重な「むかしばなし」が第十二号、十三号に掲載されています。六郷地域の古を想い浮かべるには十分な内容です。



第11号(平成8年3月1日) 六郷の銭湯は当時10軒ありました



第27号(平成13年8月1日) 足で稼いだ取材の成果

が掲載され、時代の流れを感じます。また、第十四号から三十四号にかけては、「六郷の草たち」と題し、足掛け十二年にわたって、ついつい見落としがちなる草花をイラスト入りで紹介しています。
戦後の復興期、自家に風呂がなく銭湯に通った頃を思い出

このように、「六郷わがまち」を見れば、六郷地域の様子を、さまざまな角度から知ることができます。これからもいろいろなテーマで六郷のニュースをお届けしたいと思っております。

地域の皆様に支えられて

東京都立六郷工科高等学校

校長 石井末勝氏

本校は、地域の皆様に支えられ、来年で十周年を迎えます。設立準備の段階から「六郷わがまち」を通じて皆様のご支援・ご協力をいただき、たいへん感謝しております。今年「地域との連携を深めていこう」をスローガンに掲げ教育活動に取り組んでいます。

感じてほしいということがきっかけで始まりました。毎年、定時制課程三年生の生徒が中心に製作し、学校周囲と水門通り商店街を、御輿を先頭に「扇ねぶた」や「人形ねぶた」など数百メートルにわたり行進していき、青森のねぶた祭りを思い起こすほどの美しさと熱気を与え、地域の方々からも賞賛されています。

さて、今回紹介する「ねぶた巡行」(※)は平成十八年から始まり、本年度で七年目を迎えました。毎年十一月、文化祭の時に「六郷ねぶた祭り」として行われています。この「ねぶた巡行」は、ねぶた製作の経験があった教員が、生徒にも「ものづくり」を体験させ、学ぶことの楽しさを

末筆に、六郷ねぶた祭りを陰で支えてくださる東六郷二丁目町会、水門通り商店街振興組合など多くの皆様に御礼申し上げます。地元の高校として、ますます地域と連携し絆を深めていく所存です。どうぞよろしく願いいたします。



今年は11月10日(土)午後3時30分から巡行する予定です。

(※) 青森では「ねぶた」、弘前では「ねぶた」と発音する。また、山車については青森が人形型であるのに対し、弘前では扇型が主流となっている。
写真のねぶたは、弘前の扇型のもの。